学校自慢の団体を紹介

スクールエール

SCHOOL! YELL!!



Vol.20

羽球（シャトル）にすべてをのせて

鹿屋高校 女子バドミントン部

鹿屋高校女子バドミントン部は、2年生11人、1年生10人の計21人で活動しています。高校からバドミントンを始めた未経験者が半数以上を占めていますが、各部員がそれぞれの課題を意識しつつも、部がバラバラにならず同じ方向に向かえるように取り組んでいます。

9月末の地区総体で団体は優勝、個人はシングルス・ダブルス共に準優勝の成績を残しました。目標は県総体でベスト8。先輩たちが3回連続ベスト8の好成績を維持しているので、そこを守りつつ、徐々にステップアップしていきたいです。



▲ゲーム練習の様子。部員同士でアドバイスをしながら技術を磨く。



部長
宮川（みやかわ） 瑠那（るな） さん（2年生）

公民 地理 歴史 文化 文化財 まちづくり 人物 その他

かのや風土記の中身をさらに深掘り

鹿屋街道

第20路 戦争から平和への道を学ぶ

「旧海軍の史料を保存し、海上自衛隊員の教育の一助と、平和のために」という海上自衛隊と鹿屋市民有志による願いにより昭和47年8月、海上自衛隊鹿屋航空基地の敷地内に「鹿屋航空基地史料館」が設立されました（鹿屋市史下巻）。その後、「鹿屋航空基地史料館協力会」による精力的な史料収集などの尽力を経て、平成5年7月に「新史料館」としてリニューアルオープンし、現在に至ります。

同館には、昭和11年に海軍鹿屋航空隊が開隊してからの歴史が展示されています。鹿屋は太平洋戦争末期、特攻作戦における最大の出撃基地となり、日本最多の908名が特攻隊として出撃しました。特攻隊にまつわる遺品や遺書の数々が展示されており、輝かしい未来があったはずの隊員たちの祖国や愛する家族を想いながら戦地に赴いた生きた証が静かに並び、私たちに平和の尊さと命の重みを訴えています。

また、史料館には通称・零戦として世界的に知られる「零式艦上戦闘機五二型丙」が、吹上浜及び鹿児島湾から引き揚げられた2機を1機として復元させて展示されているほか、世界で唯一現存する「二式大型飛行艇（二式大艇）」の実機も屋外展示されています。

これらの史料は当時の技術力を伝えるとともに、戦争の記憶を後世へ伝える重要なものとなっています。過去の歴史に触れ、現在の平和への道のりを学び、未来に紡ぐ。この機会にぜひ一度、足を運んでみませんか。



▲鹿屋航空基地史料館。特攻隊のほか、鹿屋航空基地のルーツから現在に至るまでを学ぶことができる。



▲零式艦上戦闘機五二型丙。復元された本機のコックピットを間近でみることができる。